

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

出雲市立稗原幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価		評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価(点数式)	評価	評価(記述式)	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育目標・めざす幼児像をもとに、園児の実態・地域の特徴(自然環境や伝統文化・コミュニティスクールの良さ)を踏まえて学級経営案・保育指導案(月案)・ねらい等を立て、教育活動を実施した。学期ごとに学級経営案をもとに反省・評価を行い、今後の教育活動に生かすよう努めた。担任だけでなく、全職員で指導方法や支援について共通理解を図りながら、一人一人の成長を支えた。	4	4	・地域の特性に合わせた運営を行っていると思う。 ・年中児しかいない中で、色々な取り組みを考えて実施していると感じる。 ・園児の実態・地域の特徴を生かした教育活動は評価できる。 ・今後も稗原の特色を生かして教育してほしい。	・教育目標、めざす子ども像に向かって、学級経営・学級活動を充実させていく。 ・少人数の良さや稗原地域の特色を生かした教育活動を工夫し、子ども達の成長を支えていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・今年度は年中児のみの単学年クラスだったことで発達段階に大きな差はなく、一人一人の発達や成長を丁寧に捉えながら、それぞれの興味や関心をもとに遊びを構想することができた。 ・記録会を数回実施し、全職員で園児の遊びの様子を見て、興味や関心・個々の成長や課題について話し合いながら実態を把握し、全職員で一人一人の成長を支えるようにした。	4	4	・この1年間、入園してから2年間の成長を色々な場面で見ることが出来、良かった。 ・一人一人の得て不得手を見て、課題として保育されていた。 ・一人一人に丁寧に接していると感じる。	・子ども一人一人の発達や課題、特性を的確に捉え、個々の良さ、個性を伸ばしていくようにする。 ・来年度も子どもについて職員間で語り合う時間を設けたり、子どもの遊びの様子を見る機会(記録会)を設けたりして、多面的な視野で子ども一人一人を捉えて、全職員で共通理解する。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・職員間の情報交換に努め、担任の指導や個々の実態に沿って個別の配慮ができるよう心掛けた。 ・支援方法は職員間で共通のものとなるよう、話し合いを行い、連携を図った。 ・計画的な指導、関係機関との連携、家庭との連携の強化を図っていききたい。	3	3	・しっかりと連携して対応していただければ良いと思います。	・すべての園児の困り感や課題に配慮し、個に応じた保育を心掛ける。 ・必要に応じて、特別支援コーディネーターが調整役となりながら、関係機関・保護者との連携を図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・人権・同和教育の視点を根底に持ち、幼児一人一人の姿を丁寧にみつめながら教育活動を行うよう心掛けた。 ・幼児一人一人が自分の思いを素直に表すことができるような雰囲気作りを大切にしつつ、相手の気持ちにも気付けるよう場面を捉えて伝えるようにして支えた。 ・職員の人権意識を磨くと共に、日々の生活の中で幼児の人権意識が培われるよう努めたい。	4	4	・人権・同和教育は、長い目で育成をお願いします。 ・人権意識を大切にしていきたい。	・職員が自らの人権感覚・人権意識を磨き、子ども達の人権に配慮した関わりをしていく。 ・職員は人権・同和教育研修に積極的に参加し、人権感覚の向上に努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・子ども達に経験させたい内容に基づいて年間計画を作成し、活動や行事のねらいを明確にして、発達にふさわしい内容・活動が実施できた。また、計画にとらわれず、興味関心・実態に即して柔軟に活動を取り入れたことも幼児の活動の広がりにつながった。 ・園だけではできない経験が、地域の協力により経験できたことは、子ども達の豊かな経験や成長につながった。	4	4	・色々なことを経験させている。継続してほしい。 ・地域の皆さんの協力による体験が、今後の成長につながると思う。 ・園児が少ないため行事の工夫が必要だが、たくさん経験できていると思う。	・今年度の行事等の取り組みをねらいに沿って反省し、成果と課題明らかにし、より良い、子ども達にとって意味のあるものになるように取り組み内容を検討する。 ・地域の「ひと・もの・こと」を生かし、工夫し、子ども達の豊かな経験や学びとなるよう計画する。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・コミュニティスクールの利点を活かし、日常的に交流、連携を行うことができた。年間を通じて、各学年と様々な活動ができ、親しみや憧れの気持ちを抱くと共に、幼稚園での活動の刺激となった。 ・12月には幼小情報交換会を行い、保育公開後に幼小の職員で協議を行った。学び合い、共通理解の場となり、育ちをつなぐ架け橋期プログラムの作成に前進が見られた。	4	4	・小学校だけでなく、近くの朝山幼稚園との交流もあり、良かった。 ・小学校との活動も色々としている。今後もコミュニティスクールの利点を生かした活動を継続してほしい。	・行事だけではなく、日頃から園児・児童・職員が気軽に関わり、様々な交流の機会を意図的に作っていく。 ・園内研修に小学校の教員にも参加してもらったり、園児の様子について情報共有する機会をもったりし、幼児理解・幼稚園教育の理解を図れるよう工夫する。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	・クラス便りや日々の連絡ノート、お知らせボードや登降園時の口頭での会話、個人懇談、クラス懇談等、日々の保育(遊び)や行事の様子だけでなく、活動の経緯や子どもの育ち等を分かりやすく、タイムリーに伝えることを心掛けた。 ・家庭とはPTAの活動等、連携、協力を得ながら行うことができた。地域には、協力をいただき豊かで充実した体験活動を行うことができた。未就園児教室もコミュニティセンターと連携しながら、活動を工夫しながら実施できた。	4	4	・地域の協力で、様々な自然体験ができている。 ・家庭や地域との連携を色々工夫して行っている。継続してほしい。 ・園での様子等をタイムリーに伝えており、保護者は安心して子どもを預けることができている。	・普段からこまめに(できるだけタイムリーに)写真やボード、おたより等で保護者へ活動の様子、子ども達の学び・成長についてなどを知らせていく。また、ホームページ等を利用し、地域や未就園児等へも情報発信していく。 ・コミセンと連携しながら、地域や未就園児との交流を深める。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・「主体的に遊ぶ幼児の育成～地域のひと・もの・こととの関わりを生かした環境の構成と教師の援助について～」という研究主題のもと、「やってみる」姿勢を支えていくための遊びの構想や教師の援助について、園内研修に合わせ、市幼研南ブロックの保育研究会を行い、評価・検証することができた。 ・職員は、市内内外の研修に多数参加し、研鑽を深めた。	4	4	・職員の研究や研修を今後も続けてやってほしい。 ・今後も自己研鑽に努めてほしい。 ・先生が学ぶことで、より良い教育を目指してほしい。	・来年度は年少児と年長児の混合学級になるため、混合学級の在り方について定期的に研究職員会を設け、全職員で語り合い研究を深めたい。 ・それぞれが参加した研修会や研究会について伝達する機会を設け、学んだことを職員間で共有する。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・事務分掌や行事担当を分担し、見通しをもった業務遂行に努めると共に、声を掛け合い協力し合いながら、一人の負担が大きくなりすぎないよう、計画的に進めるようにした。 ・働き方改革の一環として、仕事の効率性を高める方法を工夫していききたい。	4	4	・職員が負担にならないように勤めてほしい。 ・「働き方改革」を更に推進する工夫をお願いします。	・少ない職員で効率的に業務を進めていけるように、状況を共有しながら協力して進めていく。 ・早めの立案・取りかかり・準備を心掛ける。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・コミュニティスクールとして、幼稚園、小学校、コミュニティセンターと合同で避難訓練やアクションカード研修を実施し、緊急時の避難、とるべき行動について訓練・共通理解を図ることができた。限られた職員で、緊急時適切な対応がとれるよう、様々な場面を想定し、繰り返し訓練や話し合いを行い、共通理解していききたい。	3	3	・大きな地震の際、「出雲は大丈夫という安心感から心の準備が出来ておらず、日頃の備えの大切さを感じた」という話を児童クラブの方から聞いた。 ・何かあった際に小学校の助けが必要だということなので、しっかりと連携して対応してほしい。 ・リスクの洗い出しにより、危機管理に努めてほしい。	・色々な状況を想定し、日頃から職員間で話し合いをし、何かあった時には慌てず、適切な対応が出来るように準備をしておく。 ・小学校・コミセンと連携して、避難訓練等の訓練をしておく。また、協力体制についても話し合っておく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月、安全点検を行い、必要に応じて修理、修繕、市への要望を行ってきた。日頃からの点検により、危険箇所、破損等の早期発見、修繕につながった。今後も園児が安全・安心な園生活が送れるよう、定期的な安全点検・早期対応に努めたい。 ・園舎・園庭の環境は、保護者清掃活動等保護者の協力を得たり、小学校の学校校務員の協力、幼稚園の全職員の協力により、適時整えることができています。	3	3	・固定遊具でのトラブルもなく、園庭の築山を保護者と協力して修繕し、安全に管理されていた。 ・点検するところは多いが、引き続きしっかりと点検を行ってほしい。 ・防犯カメラの設置、良かった。 ・今後、獣(猿、熊など)対策が必要。	・定期的に安全点検を行い、園舎内外の施設設備・遊具等の安全管理をする。修理・修繕が必要な場合は、速やかに対処する。 ・不審者や害獣の対策について話し合い、防犯カメラ等を活用した対処の仕方等を検討しておく。

※自己評価の評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する